

会 議 録

1 会議名

令和2年度第2回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○協議事項（公開）

令和2年度地域活動支援事業ヒアリング

3 開催日時

令和2年5月24日（日）午前9時00分から午後12時40分まで

4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：西山新平（会長）、飯田秀治（副会長）、池田幸弘、井上光廣、小黒誠、折笠忠一、坂井雅子、佐藤祐子、清水薫、高澤富士雄、難波一仁、横尾哲郎
- ・事務局：牧区総合事務所 山岸所長、隠田次長、丸山班長、横田主任

8 発言の内容（要旨）

【隠田次長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【西山会長】

- ・挨拶。
- ・所長に挨拶を求める。

【山岸所長】

- ・挨拶。

【西山会長】

- ・本日の進行及び審査方法等について、事務局に説明を求める。

【丸山班長】

－資料に基づき説明－

【西山会長】

- ・意見等を求めるが無いため、これよりヒアリングを開始することとし、事業提案者の入室を求める。

－西山会長から提案者に対し、説明時間が委員からの質問を含め概ね15分であること及び説明と回答を簡潔にするようお願いする。併せて、審査の結果、提案事業が不採択となる場合があることを説明する。(以下、提案者全員に上記内容について説明した後、説明を受ける)－

- ・1番の事業提案者に説明を求める。

【提案者1】

- ・「自主防災活動支援事業」について、提案書により説明。

【西山会長】

- ・委員から質問を求める。

【清水委員】

- ・購入した資機材の保管場所はどこか。また、構成員である防災士29人は、町内会ごとなのか。

【提案者1】

- ・資機材の保管場所について牧区総合事務所へ相談した結果、牧高齢者等福祉センター内の一部を借りて保管させてもらうことになった。構成員についてだが、各町内会にいる防災士の人数は平均1人から2人であり、現在の牧区防災士会は24町内会からの防災士で構成されている。上越市における防災士の人数は、防災士会会員の方が約570人、非会員の方が約40人、合計すると約600人となる。防災士と一緒に活動している町内会もあれば、全く活動していない町内会もある。このような温度差を解消するため、これまで町内会長が集まる会議に同席する機会がなかったが、今後は、会議等へ同席させてもらい、我々の活動状況等を発信することで、各町内会の防災活動に対する意識を高めたいと考えている。また、行政の方へのお願い

いになるが、現在、コロナウイルスの感染が拡大している。万が一避難所を開設することになった場合、避難者同士の距離を離す必要が生じるなど、これまでと同様の使用ができないため、避難者を受け入れすることができないといった事態が生じないよう、避難所の使用方法等について検討してもらいたい。最後になるが、昨年度の牧区における地域活動支援事業では、補助希望額が大幅に減額された。今年度も減額となる場合があるのか。

【西山会長】

- ・今年度は、各提案団体からの補助希望額の総額が牧区の予算を下回っている。このため、採択された場合の補助率は、原則100パーセントとなる。
- ・ほかに質問を求めるがなかったため、1番の事業説明については終了する。
- ・2番の事業提案者に説明を求める。

【提案者2】

- ・「屋号を活かし、地域を活性化させる事業」について、提案書により説明。

【西山会長】

- ・委員から質問を求める。

【飯田副会長】

- ・本事業のおかげで、屋号に関心を持つ人が非常に増えたと思う。長期間の取り組みに感謝している。今年度で事業を終了することだが、是非、牧区内の全戸に屋号看板を取り付けることを目標に、次年度以降も取り組んでももらいたい。

【提案者2】

- ・各町内会長を通して希望者に対応してきた。新たに希望者が増えれば検討するが、現計画においては今年度で事業を終了する。

【佐藤委員】

- ・屋号看板を取り付けた各戸に活動状況をまとめた冊子を配布し、また、区内の施設にも設置するなど、広く周知を行っている。先般、私の息子が仕事の関係で区内の町内会へ伺った際、お邪魔した家の方に自分の屋号を伝えたところ、住んでいる町内会や家のことがすぐに伝わり、自分が知っている家の人であると知ったその方が調査に積極的に協力してくれたため、仕事を効率的に進めることができたと言っていた。改めて、本事業の良かった点を再認識させてもらった。

【提案者2】

- ・診療所の先生から、「屋号で相談される機会が多いため、冊子が非常に役に立っている」との声をいただいている。細々ではあるが、我々も本事業が区内に広がっていると感じている。

【西山会長】

- ・ほかに質問を求めるがなかったため、2番の事業説明については終了する。
- ・3番の事業提案者に説明を求める。

【提案者3】

- ・「地域づくり活性化事業」について、提案書により説明。

【西山会長】

- ・委員から質問を求める。

【清水委員】

- ・今ほどの説明ではイベントの内容がわからなかった。高尾キャンプ場及び牧コミュニティプラザを会場に実施することのだが、内容について再度説明をお願いする。

【提案者3】

- ・8月は高尾キャンプ場にてデイキャンプを実施する。火おこし体験や自然の中での自由散策など、時間を決めてのプログラムではなく、子どもたちの意思を最優先にした取り組みにしたいと考えている。また、12月は牧コミュニティプラザにて郷土の伝統継承ということで、昔の遊びや料理の文化を知る体験教室を実施し、後世へ伝承したいと考えている。2月は「灯の回廊」で使用する竹灯籠や雪像を制作する。

【西山会長】

- ・ほかに質問を求めるがなかったため、3番の事業説明については終了する。
- ・4番の事業提案者に説明を求める。

【提案者4】

- ・「川上 山里の風事業」について、提案書により説明。

【西山会長】

- ・委員から質問を求める。

【佐藤委員】

- ・昨年実施したコーラスに参加したが、歌や会場の雰囲気非常に良く楽しませてもら

った。今年度の提案内容についてだが、予算の内訳が備品よりコンサート費用の方が多いのであれば、素晴らしいコンサートを企画しているものだと受け取れるが、今回は椅子120脚の購入に予算の大部分を費やしている。購入した椅子は様々な催しに使用するものと思われるが、最近では牧振興会が行っている秋まつりで使用する机や椅子のほとんどがリースである。仮に、椅子1脚のリース料を500円とした場合、120脚借りても6万円で済む。床を修繕する計画もあるようだが、椅子を使用する時間より保管している時間の方が遥かに多いと思うし、重い椅子を長期間保管しておくのは勿体ないと思う。事業を計画する際、リースに関する資料は取られたか。

【提案者4】

- ・ 昨年はリースについて調査し、各種資料を請求したが、今年は資料請求していない。リースにする方法も1つだが、今回はスタッキングチェアを購入するため、保管する際は10脚の椅子を重ねて収納でき、保管場所もそこまで広いスペースを必要とせず重さも比較的軽い仕様となっている。購入した椅子は、本事業のみならず様々な行事で活用していきたいと考えている。

【佐藤委員】

- ・ 椅子購入について、例えば今年度は観客席の後ろに並べる分の50脚程度を購入し、前の席には柔らかい莫菴などを敷いて座ってもらうなどの工夫をしたらどうか。座ってコンサートを聴くことは、会場である川上会館の雰囲気と合っており、お客さんもリラックスできると思う。

【提案者4】

- ・ 莫菴などを敷いて座ってもらうことも検討したが、足腰が悪い方々も居るため、今回は椅子席とすることに決定した。

【飯田副会長】

- ・ 床の修理を計画しているが、150人を集めてのコンサートであり、床への負荷もそれなりにあると思う。屋根や柱が傷んでいるのであれば、当然、修理しなければならない。先ほど、「今後も継続してイベントを開催していきたい」との説明があったが、イベントを開催する度に、地域活動支援事業を活用して建物の傷んだ箇所を修理するのか。それとも、今後は協議会の基金等を活用する予定なのか。

【提案者4】

- ・何年か前に、文化庁の補助金を活用して大規模改修を行ったことがある。今後も、修理しなければならない箇所が複数出てくると思うが、出来る限り町内会で対応したいと考えている。国登録有形文化財でもあるため、必要に応じて行政とも協議していく。

【清水委員】

- ・過疎化が進む中、旧小学校の建物を拠点に活動している皆さんには、今後も頑張ってもらいたい。椅子の購入については、本事業のみならず幅広く活用してもらいたい。

【西山会長】

- ・ほかに質問を求めるがなかったため、4番の事業説明については終了する。
- ・5番の事業提案者に説明を求める。

【提案者5】

- ・「沖見地区観光拠点づくり事業」について、提案書により説明。

【西山会長】

- ・委員から質問を求める。

【難波委員】

- ・構成員21人の内訳は、どのようなものか。

【提案者5】

- ・沖見地区の各町内会長、並びに沖見地区協議会の役員等で構成されている。

【清水委員】

- ・草刈り等の計画は、どのようなものか。

【提案者5】

- ・草刈りは、8月と降雪前に実施する予定である。また、今年度から植栽した各種苗木の雪囲いを実施したいと考えており、年3回から4回の活動となる。

【清水委員】

- ・幹事等は居るのか。

【提案者5】

- ・幹事は居ない。実質、沖見地区協議会の役員が主体となって活動している。

【西山会長】

- ・ほかに質問を求めるがなかったため、5番の事業説明については終了する。
- ・一旦ヒアリングを中断し、休憩とする。

(休憩)

【西山会長】

- ・ヒアリングを再開する。
- ・6番の事業提案者に説明を求める。

【提案者6】

- ・「地域の活性化促進事業」について、提案書により説明。

【西山会長】

- ・委員から質問を求める。

【難波委員】

- ・2点ほど質問させてもらう。1点目は、「原地区は独自で取り組んでいる」との説明があったが、その理由がわかれば教えてもらいたい。2点目は、「灯の回廊」を実施する際、蝋燭以外に市から支給されるものがあれば教えてもらいたい。

【提案者6】

- ・原地区については、人口減少により協力してくれる人が居ないため、大規模なイベントが実施出来ない状況であり、自分たちの出来る範囲で実施するとのことである。「灯の回廊」を実施する際は、市から蝋燭と紙コップが支給される。紙コップは、蝋燭を入れるためのものである。

【西山会長】

- ・隣の地区で開催される「高土ルミネ」は、地域活動支援事業を活用している。「灯の回廊」の開催にあたり、安塚区や浦川原区、大島区などが地域活動支援事業の活用を検討しているなどの情報はるか。

【提案者6】

- ・そこまでの情報は無い。

【小黒委員】

- ・重機や交通誘導員など、予算規模が非常に大きい。自分たちのやれる範囲で実施するのが「灯の回廊」であり、イルミネーションなどを購入してまで実施する必要は無いと思う。自分たちの身の丈に合ったやり方で各地区が取り組めばよいのではないか。重機を使用してまで雪山を造る必要があるのか。補助金の元が税金であることを考えていただきたい。

【提案者6】

- ・「灯の回廊」には相応しくないかもしれないが、集客のためには目玉イベントが必要と考えている。

【小黒委員】

- ・目玉イベントは本当に必要なのか。「自分たちのやれる範囲で一生懸命やる」だけではいけないのか。

【提案者6】

- ・蝋燭だけでは限界がある。イルミネーション等の装飾を行うことで、来てくれた方々に美しい景色を楽しんでもらい、併せて牧区をPRしたいと考えている。

【小黒委員】

- ・牧区をPRするのであれば、区全体で取り組めばよい。

【清水委員】

- ・牧地区において「灯の回廊」に長く関わってきたため、重機を使用する理由について説明させてもらおう。地区内にある公園の土手をメインに蝋燭を設置しており、当初は重機を使用していなかったため、斜面が崩れて危険であった。このため、現在は重機を使用して斜面を固めている。重機を使用するもう1つの理由は、ゲートボール場についてである。ゲートボール場は隣接する駐車場の排雪場所であるため、雪山となっている。これを均すために重機が必要となる。これらの理由により、牧地区では重機を使用しなければならない。

【小黒委員】

- ・それは承知している。

【西山会長】

- ・牧区への入口となる高土地区では、「高土ルミネ」が盛大に開催されている。牧区まで来てもらうには、ある程度のイベントが必要となる。小黒委員から出された意見については今後の検討事項としてもらい、今年度は提案された内容について審査したいと思う。

【横尾委員】

- ・牧区にとってもそうだが、「灯の回廊」は市の一大イベントである。イルミネーション等について意見が出たが、今回の提案内容は各地区の判断により必要と決定されたも

のである。見直しすべき事項については、次回に反映してもらいたい。各地区の取りまとめは大変な作業であるため、改めて幹事の方々に感謝したいと思う。

【提案者6】

- ・イルミネーションについては、各地区から提案されたものであり、我々は内容をまとめただけである。今回出された意見を各地区協議会へ報告し、今後、協議していきたいと思う。

【西山会長】

- ・ほかに質問を求めるがなかったため、6番の事業説明については終了する。
- ・7番の事業提案者に説明を求める。

【提案者7】

- ・「おら村の花嫁行列」再現事業について、提案書により説明。

【西山会長】

- ・委員から質問を求める。

【清水委員】

- ・行列を行う時間やルートなど、詳細な計画はあるのか。

【提案者7】

- ・最終的には決まっていない。牧振興会による11月3日開催予定の牧まつりの中でやらせてもらいたいと考えている。振興会の方が、秋まつりに対する具体的な検討に入っていないため、協議は出来ていない。現在の考えでは、通常の花嫁が来るような段取りで会場に入ってもらい、送り歌や迎え歌、行列の後ろで子どもたちが遊ぶ姿など、昔見たような形を外で実施したい。正確に再現するには自宅で花嫁が支度するところからだが、業者とも詳細な打合せが出来ていない。実際に皆さんに観てもらうのは、メインとなる歌や子どもたちが騒いでいる場面を再現したシーンとすることで検討しており、イベント時間としては15分程度である。

【池田委員】

- ・提案内容は、11月の秋まつりにおいて「花嫁行列」を再現し、併せて、写真と動画により保存するとの内容であるが、行列は今回限りなのか。また、提案書に「記録写真」「動画」の活用と記載されているが、活用方法についての具体的な計画があれば説明をお願いします。

【提案者7】

- ・行列は今回限りであり、今後の実施予定はない。記録した動画等については、夢まつり等の会場で上映が出来ればと思っている。

【折笠委員】

- ・花嫁と花婿役は決まっているのか。

【提案者7】

- ・打診はしているが、正式には決まっていない。他の役は決まっている。推薦したい方がいれば連絡をお願いします。

【坂井委員】

- ・「花嫁行列」の保存と継承を目的に地域活動支援事業に提案したのであれば、今回限りの行列ではなく、継続して取り組んでもらいたい。次年度以降の活動予定が動画の再生のみでは勿体ない気がする。牧区内で実施されているまつりや行事の中に短時間でも「花嫁行列」を再現する場面を設けるなど、継続して活動していくことが大事である。また、継続して活動することが、区内外への周知に繋がるのではないか。今回は支度一式が貸衣装でもあるため一回限りの行列となるが、保存と継承に向けた今後の活動内容について検討をお願いします。

【提案者7】

- ・実演を望む声が多くあるのであれば、各団体などと連携し、継続して活動していきたいと思う。

【高澤委員】

- ・花嫁と花婿役が決まっていないとの説明があった。要望になるが、若い世代の方々にも声を掛けるなど、行列が盛大に実施できるよう努めてもらいたい。

【西山会長】

- ・ほかに質問を求めるがなかったため、7番の事業説明については終了する。
- ・8番の事業提案者に説明を求める。

【提案者8】

- ・「泉 棚田ほたる事業」について、提案書により説明。

【西山会長】

- ・委員から質問を求める。

【佐藤委員】

- ・提案書の次年度以降の活動の見通しに、「棚田カフェや農産物直売等の多彩な展開を目指す」との記載があるが、これらは昼の時間帯に営業するのか。それとも、ペットボトルが点灯している時間帯に営業するのか。

【提案者 8】

- ・次年度以降の計画について、詳細は決まっていない。現状では、出来ればやりたい程度である。構想ではあるが、8月の土曜日だけでもペットボトルが点灯している時間帯にカフェなどを設置したいと思っている。

【佐藤委員】

- ・人は明かりを求めて集まってくるため、ペットボトルが点灯されている時間帯にカフェなどが営業されていれば、景色と合わせて楽しんでもらえるのではないかと。出来れば、最初からペットボトルを1千個買うのではなく半分程度の購入とし、棚田カフェや直売所の整備を行ったらどうか。人を集める手段を考えながら実施するのも1つである。皆さんの都合や予算の関係もあると思うが、明かり以外にも楽しみがあると良いと思う。

【提案者 8】

- ・貴重な意見を頂いた。町内としても初めての取り組みとなるため、課題等も含め今後の参考にしたいと思う。

【井上委員】

- ・チラシにより事業を周知するのも良いと思うが、可能であればホームページなどを開設し、周知してもらえればと思う。集客力も上がり、来場者が増えることで交流人口の増加にも繋がる。

【提案者 8】

- ・ホームページの開設については、今後検討したいと思う。

【清水委員】

- ・次年度以降の話になるが、ペットボトルを設置した際の一番の見頃は、田植え直後から2か月後までの期間だと思う。夕日が綺麗に見える場所であり、水面に光が当たることで、一層綺麗に見えると思う。出来れば、ペットボトルは田植え直後に設置してもらいたい。

【提案者 8】

- ・設置時期については、今後検討したいと思う。

【西山会長】

- ・ほかに質問を求めるがなかったため、8番の事業説明については終了する。
- ・9番の事業提案者に説明を求める。

【提案者 9】

- ・「上牧番所、塩の道、古代詞の保存と観光地域交流整備事業」について、提案書により説明。

【西山会長】

- ・委員から質問を求める。

【清水委員】

- ・ボランティアの方々が草刈機やチェーンソーを使うとのことだが、草刈機を使用するには刈払機の資格が必要となる。また、チェーンソーの使用にも資格が必要となるため、安易に資機材をボランティアに提供し、作業してもらうことは非常に危険であり、好ましくない状況にあるため注意してもらいたい。

【提案者 9】

- ・ボランティアの中には有資格者が複数人居るため、作業時はこの方たちをお願いする予定である。安全に注意して作業したいと思う。

【佐藤委員】

- ・地域活動支援事業では、物品の購入のみを目的とした活動を伴わない事業は対象とならない。活動後の刈払機の刃や燃料等の消耗品を購入するのが本来である。本事業については、これまでも自動翻訳機など様々な物品を購入しているが、どのような活動を行ってきたのかが見えてこない。勉強会とあるが、どこの小学校から何人来たのか、これまでの観光客の来場者数は何人なのか、整備作業に町内会から何人の方が出席されたのかなど、本当に町内会が一体となって本事業に取り組んでいるのかわからない。また、牧飯山線が災害などで通行止めとなっているが、上牧町内会の方々がどのようなルートを辿って通行しているのか不思議で仕方がない。活動するために必要な物品は購入すべきと考えるが、今回のようにただ物品を購入するような提案は好ましくないと私自身は思う。

【西山会長】

- ・ほかに質問を求めるがなかったため、9番の事業説明については終了する。
- ・引き続き、事務局より、採択・不採択事業の結果について報告する。

【丸山班長】

- ・審査票を集計した結果、9件すべての提案事業が委員の半数以上の○判定により採択となり、補助金の総額は4,975千円となった。改めて、採択事業及び補助金額、残額25千円に係る二次募集の実施、未実施について、協議をお願いする。なお、提案団体への結果通知書については、採択決定後に速やかに送付する。

【西山会長】

- ・採択事業及び補助金額について意見を求めるが無かったため、報告内容のとおり決定することとし、総合事務所長へ報告する。続いて、二次募集の実施、未実施について、意見等があればお願いする。

【難波委員】

- ・補助金の元は税金であり、残額を無理に使う必要は無いと考える。

【清水委員】

- ・沖見地区が非常に頑張っている。提案内容に燃料費等が考慮されていなかったため、残額も少額であることから、提案書を変更してもらい増額して配分したいと思う。

【小黒委員】

- ・難波委員からも意見があったが、補助金の元は税金である。少額であっても無理に使用せず、市に返納するべきと考える。

【横田主任】

- ・沖見地区への増額については、提案書を修正してもらったうえで、改めて地域協議会にて決定する必要がある。また、ほかに提案されている8団体への説明も必要となる。従って、この場だけで「残額25千円を沖見地区に増額して配分する」との決定は出来ない。

【清水委員】

- ・難しいのであれば、意見は取り下げる。

【小黒委員】

- ・市に25千円を返納した場合、返納した金額が来年度の配分額から減額されるといっ

たことはないのか。

【山岸所長】

- ・そのようなことは無い。

【西山会長】

- ・ほかに意見を求めるが無いため、二次募集については実施しないこととし、残額25千円については、市に返納することに決定してよいか。

(一同、異議なし)

【難波委員】

- ・先ほど佐藤委員からも意見があったが、今年度は備品を購入するといった内容の提案が多かった。次年度以降になるが、備品購入に係る取り決めに明確にし、予め採択方針に記載する必要があると感じた。また、前回の地域協議会時に、継続事業について会長から話があった。これについても、提案されてから審査したのでは遅いため、募集前に十分協議し、対応を検討しなければならない。最後に、コロナウイルスの感染拡大により、提案団体が計画どおりに事業を進めることが出来ない、若しくは予定していたイベント等が出来ないといった場面が想定される。このような場合でも、事務局においては補助金の支出状況をしっかりと把握し、年度末に当地域協議会で報告してもらいたい。

【西山会長】

- ・ほかに意見を求めるが無く、令和2年度地域活動支援事業ヒアリングを終了する。
- ・続いて、その他連絡事項について、事務局に説明を求める。

【丸山班長】

- ・「令和2年度牧区地域協議会年間スケジュール」について説明。

【西山会長】

- ・意見を求めるが無く、飯田副会長に閉会のあいさつをお願いする。

【飯田副会長】

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-533-5141 (内線 147)

E-mail : maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。